

## 第9回 議会活性化検討特別委員会 会議録

---

日 時 令和5年11月16日(木曜日) 午前10時00分 ~ 午前11時50分  
場 所 白桦庁舎2階 全員協議会室

---

### 出席委員の氏名

委員長 戸匹 映二                      副委員長 伊藤 淳  
委 員 川辺 隆                      委 員 匹田久美子                      委 員 内藤 康弘  
委 員 大塚 州章                      委 員 武生 博明

---

### 欠席委員の氏名

( な し )

---

### オブザーバー

議 長 梅田 徳男

---

### 説明のため出席した者の職氏名

( な し )

---

### 出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英    次長 後藤 秀隆    主査 大井智香子    書記 足立 卓也

---

### 傍聴者

( な し )

---

### 会議に付した事件

1. 今後の検討・協議事項等について
  2. その他
- 

午前10時00分 開議

### ○委員長(戸匹映二)

ただいまから第9回の議会活性化検討特別委員会を開催いたします。

お手元に配布している次第の協議事項1. 今後の検討・協議事項等について(1)から(5)までありますが、本日は予算要求の関係上、早急に決めなければならないものがあります。

(3) 広報機能の充実についてと(5) 議会 ICT化に向けた取り組みです。この部分については重点的に協議をしていかなければならないものになります。

(1)、(2)、(4)については経過報告になりますので、この部分は次回以降に回したと考えていますがよろしいでしょうか。

( 「はい」 の声 )

早速(3) 広報機能の充実についての協議を進めていきます。①市報掲載内容の市議会だよりのページ数の増加等の内容についてですが、現状、市報の中には見開き1ページしか議会の内容がないという状況です。もう少しページ数を増やして充実させないといけないのではないかとということでした。

そこで、事務局が執行部担当課に市報のページ数増加について協議をしています。その結果も踏まえて、市報のページを増やすのかまたは議会単独で議会だよりを作成したほうがいいのか、そのあたりを協議したいと思っています。

市報のページ数を増加するにしても、議会から執行部に要望を出さないといけません。また、例えばですが、A3両面のものを単独で別刷りして市報に織り込んで配布するという方法をとる場合は、予算要望する必要があります。なので、どちらにするかは協議しないといけないと思います。

まずは、事務局から執行部との協議した内容の報告をお願いします。

◎局長(林 昌英)

市報の半ページ増加について執行部の担当課である秘書・総合政策課と協議を行いました。その中で言われたのが、半ページを増やすということは、最終的には見開き1ページが増えるような形になるので、市報全体のページとしても増えます。現在、担当課としては市報のページ数は減らしていく方向で動いており、市報で減らしたものはSNS等にシフトしているようです。なので、担当課としては、議会だよりのページ数を増加することには難色で、増やすなら市報とは別に議会ですべてを組んで議会だよりを作成して市報に差し込むということも考えないといけません。

そのような中で、先ほど委員長が言われたように、市報の中のページ数を増やすのであれば、執行部に対して議会から正式にページ数増加の申し入れをするのか、あるいは、議会として予算化して、議会だよりを作成するか、そのあたりの議論が必要かと思います。

○委員(川辺 隆)

今御提案がありましたA3の見開き両面のものを市報の中に織り込んで出す方法なのですが、これになった場合、編集方法というのは従来の編集方法で良いのでしょうか。

○委員長(戸匹映二)

現状、2ページが実質A4の4ページに増えるということですので、当然掲載内容については議論しないといけないと思いますが、どちらにせよ、議会活性化の中で、当初の考え方から言うと、今の議会だよりをもっと増やして広報をしていかないといけないのではないかとこのところからスタートしております。ですので、まずは、増やすということを前提と

して、市報を増やすのか、また、別刷りで作るのかというところで、どちらにせよ中身は、今後、4ページになれば4ページなりのものを作れるように協議していけばいいと思います。

それよりも現状のものをどうやって増やしていくのかというところを、まずは決めてから、そこからスタートしても良いのではないかと思います。その辺のところの御意見も含めてお願いしたいと思います。

○委員（大塚州章）

今は増やそうという流れです。内容があるのであれば、議会として単独で予算をもらってやったほうがいいかなと思います。

○委員（匹田久美子）

そもそも増やすということは前提条件だったのでしょうか。今の倍量になるとすれば、今は、事務局が中心になってほとんどを作ってくれていますが、そうすると、議員で作るという話になりますよね。

○委員長（戸匹映二）

そこもあわせて、ページを増やせば増やしたなりに、紙面をつくる作業は増えますので、そこをどうしていくかということころは当然出てきます。増やすのか、増やさないのかということもまず決めて、そこから、内容を議論していてもいいのではないかと思います。なかなか中身も同時に議論をしていくと話が前に進まないと思います。これについては、ある程度の方向性を決めておかないと、また1年間ずれてしまう可能性があります。

○委員（匹田久美子）

選択肢としては、増やす・増やさないということもあると思いますし、1年に4回議会がある中で、議会の内容の厚みが重たい時だけ増やすとか、いろんな、選択肢があると思うので幅広く議論していただきたいなと思います。

会派で話した意見も含めて、私自身の意見を言いますと、今すぐにはではないですけど、議員の定数削減というようなものも、おいおい提言していかないといけないという話はしています。ですので、議会としての余力がない中で見開き2ページ分の議会だよりを、議会が中心となって毎回つくるとするのは、決めてしまえばきっちりやらないといけないと思っています。それだけ責任を持ってやれる余力があるのか。継続して責任を持ってというのは難しいのではないかなと思います。

私としては、年4回それだけのものを議会全体としてつくっていくというのは、労力として大変なんじゃないかなと思います。

先ほど説明にもあったように、SNSとかホームページとかに、市も移行しようとしている中、個々の議員がSNSで発信したり、会派や議会としてSNSを利用したり、ケーブルテレビをもっと利用したり、紙媒体以外にも、広報の方法はいろいろあると思いますので、そちらも幅広く検討したほうがいいんじゃないかなと思っています。

ですので、結論としては、紙媒体で今の場合、年4回増やすというのは難しいと思います

ので反対です。

○委員（内藤康弘）

今の匹田委員のご意見は、要するにページを増やすのではなくて、今までどおりやりましようということですね。私もそれには基本的には賛成です。今現在、市報に掲載するようになったのは、率直に言うと我々議員が手を煩わせないということを選択したと私は理解しています。

ですから、執行部側が、市報のページ数を減らそうという考え方は分かるのですが、匹田委員が言われたSNSやインターネットを使っての部分としては、見れない人は見れないんですよね。市報であれば、恐らくみんなに届きます。高齢者の方もいるので、そういう方を含めて考えれば、幅広く届く市報が1番いいのかなと思います。

議会が中心となって、別途予算を組んでやるとなれば、議員が先導するのか、今までどおり事務局側がやるのか、その辺は決まっていますが、年に4回のネタは持ち合わせているのではないかなと思うので、今までどおりでやればいいのかと思います。

○委員（大塚州章）

そもそも議題になったのは、市報の中に委員会活動とかも載せたいといった意見が出て、少しページを増やさなきゃいけないという流れから、この広報紙をもう少し増やしてもらうかという話ですね。

SNSで発信したらというご意見もありますが、これは誰がするのですか。議会活動としてだから例えば委員会の活動は、委員長がする形になるのでしょうか。そうなると、議会としての広報ではなくなると思います。そこはみんなで汗かいてやるようになるのではないかと思います。そうでないと、この議題に上げた意味がなくなるかなと思います。

○委員（内藤康弘）

先ほどの局長の説明の中で、今までのとおり市報に掲載するのがいいのか、議会が別途議会だよりをつくって市報に差し込むのか2通りを説明しましたが、要するに予算絡みでいうと、あまり変わらないことになるのですよね。市報としては、ページ数を減らしたいわけですね。だけど最近はページ数が増えているようなイメージがありますが、その辺の差というか、予算を削ろうとしているのか。予算の関係を説明お願いします。

◎書記（足立卓也）

予算の面でいきますと、例えば年に4回、議会だよりをA3両面の簡単なものをつくらなると、大体1回当たり約20万円かかります。なので、年4回で約80万円から100万円弱ぐらいはかかるかなと思っています。

今回新たに議会だよりを作るとなると、その分予算計上をする必要があります。ただ、執行部のほうは、市報から見開き1ページなくなるので、その分の予算というのは削れると思うのですが、それについては、1枚当たり数十円だったと思いますので、そこは執行部として大きく削減されるようにはならないのではないかなと思っています。むしろ、議会として100万円新たに予算計上するようになるので、市全体で考えると、増えるようにはなるの

かなと考えています。

○委員（内藤康弘）

そうであるならば、今までどおりがいいんじゃないですか。

○委員（川辺 隆）

内藤委員の今までどおりというのは、見開き1ページと半ページというお話ですよ。ということは、今の見開き1ページの量では、議員活動・議会活動また委員会での審議内容等が載っていませんので、それを載せるためには申し訳ありませんけど、増やすしかないですよ。

増やすということに関して今、委員長が質問されていましたが、増やすことに関しては、私たちは全員賛成だと思います。

そこからどうやって増やすのかという議論を今はしていると思います。そうなったときに内藤委員がおっしゃられた。今までの形態で見開き1ページプラス半ページということであれば、今の事務局の説明ですと、他は減らそうとしているのでページ数は空きが出ると思います。

他は減らしてくれていいですよ。その分ページ数の余裕ができるのであれば、今まで我々がこの1年間した議論の結論は、今の見開き1ページを1.5ページ、2ページにしようという議論だと僕はと思いますが、そこまでは決まっていたんじゃないですか。

○委員（武生博明）

過去に議会だよりもいろんなことがあってやめるようになったけど、これはやっぱり経費から見ると相当、助かっていると思います。

事務局職員も1人か2人必要です。それは今こういう形で、市報に載せていただくようになったことは大きなプラスなので今回もいろいろ議論することはないと思います。

1ページ追加してくださいと強く言えばいいと思います。それは事務局に任せるんじゃないくて、委員長や議長がそういう交渉するのがいいと思う。

議員がやるということは事務局の仕事が増えるということ。我々がしますか。何であれ事務局がつくるのだから、市に増やしてくださいということと言わないと。強腰でやってください。

○委員長（戸匹映二）

ページ数を増やそうという御意見と、別につくるという御意見と、どちらもありますけど、この辺で決をとって、もし市報を増やすということであれば、議長からきちっと要望を出していただくという方向で決を採りましょう。

（ 「はい」 の声 ）

市報を増やす方向で要望を出したほうがいいという方は挙手をお願いします。

（ 挙手多数 ）

ありがとうございます。

では、執行部には、議長のほうから要望していただくということでいきたいと思います。

よろしく申し上げます。

あと、具体的な内容については、同時並行でまた次回、議論していきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、③議場を活用した広報活動についてに移ります。

これについては、前回もいろいろと御提案の声が上がっていました。各委員のほうから、議場コンサートの御提案も出ています。

事務局が、他市の事例を画面に写しておりますので、参考にまず見ていただきたいと思えます。

( スクリーンに他市議会の事例を投影 )

千葉県松戸市議会ですが、ホームページの冒頭に、このコンサートをする意義というものをきちっと明記しております。

下の写真が実際にやっているところの写真の事例ですね。ここは執行部は参加しておりませんね。議員は全部議席のほうに座って聞いているという形になります。

これはやり方はいろいろあるかと思いますが、他市議会を見ると大体開会前にやっているところが結構多いみたいです。

#### ○委員(川辺 隆)

白杵市議会においても、やはり新しい議会のもと議会活性化検討特別委員会また議会基本条例の活用により、各委員会が積極的に市民に寄り添う形で今活動を行っています。議場を活用した取組でいえば今回、建設産業委員会が、高校生を議場に呼びました。教育民生委員会では、小学生にお声掛けをして準備しています。総務委員会は市内の各地域振興協議会と意見交換しています。議場に一般の方に来場していただき親しみを感じていただきたいという名目で、予定ではありますが、この12月19日の議会閉会日に、ミニコンサートという形で開けないかということで先般提案をさせていただいております。本来であれば何度かこれを重ねていけば議場コンサートというしっかりした形で、議場の中にも座席を置くことや、小・中学生の発表の場としても使えたらいいななどいろいろと思っています。今回、議会閉会日が19日の火曜日ということと、第1回目の開催ということで周知方法についても、市報に載せることができません。限られた座席しかありませんので、本当に皆さん来られたときに、見られない状態になりますので、最小限の方でまず一度試験的に、議場コンサートの企画を提案させていただきたいと思っております。

これに関しましては実は、白杵市内で、先般、戸匹委員長と伊藤副委員長員でミニコンサートの視察に行かせていただきました。

その際に、資料に記載されている3名で小さなコンサートを1時間程度行ったのですが、この中には白杵の故郷をつかさどる歌や季節に合った歌などがあり、今回の趣旨に合うところがあって、身近にふるさとの歴史を感じてもらえる機会がつかれるのではないのかなと思っております。

経費は発生します。1名の方の宿泊代と交通費を含めた旅費が発生するので提案をさせ

ていただいております。

時間がなくなって、こういう提案の運びになりましたが、できれば、皆さんの御理解をいただいて12月19日まであと約1か月ちょっとしかありませんけれども、準備を早急に始めさせていただきたいと思っております。皆様方の御理解と御協力をよろしく願いいたしまして提案させていただきます。

議長にも正式に本活性化委員会から、御提案を差し上げてまた事務局にも、予算のほうを事務局経費として旅費の費用弁償はある旨の御返事をいただいております。御理解をよろしく願い申し上げます。

○委員長（戸匹映二）

今、川辺委員から御提案がありました議場コンサートですが、これ、実際実施するに当たって、何か思いつくような課題等があるかと思っておりますので、皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。

○委員（川辺 隆）

実はこれについては白杵市議会で初めての取組となるのですが、このときにアンケート調査をさせてもらったほうがいいのかなどは思っています。

3項目から5項目までくらいの量のアンケートで、「内容がよかったか」、「議場に何度か来られたことがあるか」といった意見を聞いて、次回開催や議場を活用した行事に活用できればいいと思っています。

○委員（大塚州章）

アンケート調査は来場した人だけですよね。あと、ケーブルテレビはコンサートを放送しますか。

○委員（川辺 隆）

これは大きく市民にアピールする場になると思います。また議場に来ていただくためには次回開催も含めて、ケーブルテレビでどうか流していただきたい。また、同時に大分合同新聞等のメディアに対しても、情報の発信をお願いしたいと思っております。

○委員長（戸匹映二）

ほかに御意見はありますか。

まず1番の問題ですが、経費的な部分について、これは事務局のほうは何か考えありますか。

◎局長（林 昌英）

旅費に係るいわゆる費用弁償ですけど、これは、当初予算では今回のような用途で予算は組んでいません。組んでいませんが予算があるというのは、皆さんの行政視察や議長の公務出張などを費用弁償として旅費を組んでいます。そういった費用弁償の残額はありますが、これは、それぞれの目的を持って予算計上しておりますので、当初から議場コンサートを予算として組んでいませんし、皆さんにもそういう説明はしていませんので、まず、議員さん全員が当初の目的以外の使用の了解をいただく必要があろうかなあとは思っておりま

す。

○委員長（戸匹映二）

使う目的を議員で決めていいということになるわけですか。

◎局長（林 昌英）

議員さんが決めていいというか、本来執行部が上げている予算についてもやはりそれぞれ目的があって、それを議会で承認して議決をいただいているという中で、議会だけ余っているものを使ってもいいかという議論に発展するのはどうかと思います。例えば、市民からそういったことを言われたら、ある意味議会を軽視した内容ではないかなということも思われる可能性があります。この辺りは考えておく必要はあると事務局的には考えております。

○委員長（戸匹映二）

方向性としては互新会が出したほうがいいかなということですね。

この件に関しては代表者会議のほうに諮っていただくということによろしいでしょうか。

○委員（内藤康弘）

仮にどなたかが反対したときはどうしましょう。中止ですか。

○委員（川辺 隆）

これは、互親会のお金ですからこれを使わないということであれば、違うところから費用を持って来れば済むと思います。開催に対しての反対は微妙なところで、これは議会活性化検討特別委員会の決定に伴って、議長に提案をします。このときに、議場においては議長の判断によるという一文があれば、議会活性化検討特別委員長から許可をいただければ開催できると思います。

問題は費用に関してです。全員一致じゃないと使えないと思います。

○委員（内藤康弘）

この件に関して反対はあり得ないという思いですが、もし仮にそういうことがあっても恐らく開催はできるとは思いますが。これを反対する人はちょっといかがなものかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

休憩します。

午前10時40分 休憩

---

午前10時47分 再開

○委員長（戸匹映二）

再開します。

このコンサートに関して実際に行うということについては皆さん同意していただくとい

うことでよろしいでしょうか。

( 「はい」 の声 )

それでは開催に向けて20日の9時から代表者会議を開いて、協議事項を協議していた  
だき、その後に全員協議会を開いて、このコンサートについてお知らせをさせていただく  
という段取りでいきたいと思いますのでよろしくお願いします。

では、具体的にやるという方向ですので、一度中身を確認させていただきたいと思  
います。内容も30分以内ということですけどそれぐらいでよろしいですかね。

( 「はい」 の声 )

日にちも12月19日の閉会日の開会前の午前9時または本会議終了後、これは、ど  
ちらがよろしいでしょうか。本会議終了後に何か予定は入ってなかったでしょうか。

◎局長(林 昌英)

今の段階では終了後は入っていませんが、通常、本会議終了後に全員協議会が開  
催されることが、慣例になっております。他市の状況を先ほど出しましたけども、  
議場コンサートをする場合、開会前にするところが多いようです。というのも、  
本議会の模様を見てもらうというのが1番の目的なので、本会議が終わった後  
ではそれができないので、やはり開会前の9時ぐらいから30分程度して、通  
常どおり10時開会というかたちのほうが市民に来てもらうのには有効かと思  
います。

○委員(川辺 隆)

逆に、コンサートを見た後に帰られたら困ります。それよりは、もう、9時半なら  
9時半の時点で抽せんに参加していただいて、傍聴席が40席あるので、その40  
席に座っていただいて、議会閉会日の採決等を全部見て帰って欲しいです。事  
例によりますと、議会開会前にしているところもあれば、後にしているところ  
も実はあるんですよ。

そういう面では、後のほうがいいのかなあと思います。

◎局長(林 昌英)

後にした場合の時間の組み方ですが、結局本会議終了後、例えば10時とか10  
時半に終わって、それから、10分休憩の後、機材の持込み、その間のいわゆる時  
間的なものが10分くらいでできるものであればいいのですが、設定に30分と  
かかるようであればという危惧がありました。その辺の準備の時間がちょっと分  
からなかったのも、そういうものがなければ、終了後ということも可能かなと  
思っています。

○委員(川辺 隆)

伊藤副委員長と見に行ったときは、パーカッション、電子ピアノの小さいもの、  
あとはバイオリンとギター程度でした。それであれば、持ち運びはできるので、  
最初に音響の準備さえしとけば、セッティングそのものは余りかからないと思  
います。スピーカーもそんなに大きなものは実は使わなくても議場自体の音響  
設備がいいので多分できると思います。

ただ、皆さんに諮っていただきたいのは、市民の方にどうしても議場の採決  
を見ていただきたいと思っています。その上で最終日の開会前にするのか閉会後  
にするのかどっちが本

当にいいのかというのは議論していただきたいと思います。議場の過程を見ていただいてコンサートにつなげたほうがいいと思いますが、事務局が最初にコンサートをして、その後も見ていただけるというのであれば、それでもいいと思います。ただ、朝一の開催ですと、家庭を持っている若いお母さんたちはお子さんをまず幼稚園に送りに行くことや家の家事を置いて出てこないけない時間帯になるかなと思います。その点も踏まえて議論していただければと思います。

○委員（大塚州章）

いろんなパターンがあると思います。議長が議事進行上、1番大変かなと思います。

例えば、議事進行で反対討論とかいろいろ出てくることになった場合は、11時で一旦休憩に入って、そこからコンサートをして、その後に審議が残っていれば、するといった方法をしないと、お客さんが、何時に来ればいいのか困るかなと思います。特段何もなく終わればいいんですけど、そうではない時がちょっと怖いので、その辺も含めて、時間を決めたほうがいいかなと思います。

○委員（武生 博明）

開会の前にするべきだと思います。コンサート後に議会を傍聴してくださいというお願いをした上で、帰る人は仕方がないと思います。

○委員長（戸匹映二）

やはり主は議会なので、議会を途中で止めるというのはいかがかなという感じはします。

○議長（梅田 徳男）

私も開会前がいいと思います。

あとは、コンサートだけ見たい人、コンサートから傍聴までする人、傍聴だけしたい人、いろいろな人がいると思います。同じ会場なのでそれを工夫しないといけないと思っています。

○委員長（戸匹映二）

もうここで、時間を決めておきたいと思います。開会前のほうがいいという方は挙手をお願いします。

（ 挙手多数 ）

では、開会前ということで進めます。時間は、30分程度の演奏なのでその後、10分休憩をするのであれば、9時20分でも30分でもいいかと思っています。

開始時間については、匹田委員が演奏者の方に確認していただいて、1番いい時間を決めていただいてそれを事務局のほうに報告していただいてよろしいですか。よろしく申し上げます。

続いて、資料の5番目の鑑賞料についてですが、当然無料で40席ということですが、誰をどう呼ぶかというところを議論していきたいと思います。

○委員（匹田久美子）

市内で何回かコンサートを重ねている方々なので知っているとかファンだという方もい

らっしゃいます。なので、大きく広報しなくても、ある程度確保するぐらいの人数は集まると思います。

先着順に入っていただいて、もしよければ整理券でも配ってということになるのですけど、いい感じで集まるのではないかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

申込みはどのような形で受け付けをするんですか。

○委員（匹田久美子）

事前申込みですかね。

○委員長（戸匹映二）

そこは、事前申込みのほうが安全でしょうね。

40名以上来ることは難しいのですが、もし傍聴席に入り切れないとかいう話が出てくると、事前に申込み受付を事務局でしていただくとかいう形できるのでしょうか。

◎局長（林 昌英）

事前の申込みということであれば、市民の方にお知らせする機会を当然設けないといけません。そうなると、ホームページあるいはケーブルテレビの文字放送、LINEとかそういうものを使っての事前申込みは可能ですが、そうしたときに、そういうことを計画しているんだったら市報でもっとしっかり広報すべきじゃないかという御意見もないことはないと思います。今回、広報の期間が短いので、そこまでするのかというところもあります。今回試験的にということであれば先着順でやることはできると思ってこういった案になっているんじゃないかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

広報の仕方はどのような形で、市のホームページに載せるようになりますか。

◎局長（林 昌英）

資料の9番広報の中にもありますが、ホームページ、ケーブルテレビ、文字放送で流せます。LINEも定例会の日程をLINEに載せています。LINEを登録する方しか、当然見ることができませんが。こういった3パターンを今のところ事務局としては考えています。予算もないのでチラシを入れ込むといったところまでは考えていません。

○委員（大塚州章）

例えば事前に先着順で申込みをしていただいて、3日ぐらい前に期限を切って、人数が少なければ、匹田委員とかが知り合いの人に声をかけて、それで皆さんがいっぱいだったらそこでもう一杯になったというふうにしておかないと、本当に40名を超えてきたときに帰ってくださってというのはなかなか言いにくいかなと思います。なので、その辺のところをもう3日前ぐらいで先着順にしておくのはどうかと思います。

○委員（川辺 隆）

全員協議会室でモニター鑑賞するのですか。

◎局長（林 昌英）

今までも、コロナの関係で感染防止対策として、こういったモニターを使って、議場の模様を見ていただいているので、準備をすればできます。

○委員（内藤康弘）

あくまでも、今回は試験的なので、御批判を受けるのはもう当たり前というふうに考えてやればいいのかと思います。

ここに書いておるとおりにやればいいのかではないでしょうか。

○委員長（戸匹映二）

本当に第1回目ですからね。いろいろと課題も出てくるかと思いますが、最初から完璧にはなかなか難しいと思います。ただ、せっかくプロの方に来ていただくので、あんまり寂しい形もできません。

ここに書いているように、一応広報としてはホームページ、ケーブルテレビ、LINEに流して、先着順という形で申込みを受けるということについてどうでしょうか。

○委員（川辺 隆）

議会開会前の時間について我々の感性がずれているのかもしれませんが。

9時からとか9時20分じゃなくて多分これ、10時からですよ。開催する時間帯が議会開会前という考えで、我々は10時より前にしないといけないと思っているけれども、我々の多分考え方が、一方的に固まっているのかなあと。これから僕たちの時代にやるとしたら10時からやると思います。

そのあと、開会の日程をずらしてでもするのが今の時代なのかなあと思いました。

○委員長（戸匹映二）

議会の開会日は、基本的には動かさないほうがいいのかと思います。どちらにせよ今回は平日の午前中なので、来れる人は限られると思います。閉会後にやっても同じだと思います。

そういうことで時間は動かさなくていいと思いますがそれでよろしいでしょうか。

（ 「はい。」 の声 ）

傍聴席に入れない方は、モニターということは40席以上、モニター室に入れる人数までは受け付けをするということになるんですか。

○議長（梅田 徳男）

傍聴だけ来たい人のための席はちゃんと確保をお願いします。

○委員長（戸匹映二）

要するに議会の内容を聞きに行きたい人たちがまず優先で、入っていただくという形になるということで議長よろしいでしょうか。

○議長（梅田 徳男）

10時からの開会の際に、傍聴だけしたい人がちゃんと座れるようにしておいて欲しいです。

○委員（匹田久美子）

9時10分から開演しても40分には終わるので、そこで帰る方も正直多いでしょうし、入れ替わることができるのかなとは思いますが。

○委員長（戸匹映二）

その心配は余りないかなということですね。そうすると、難しいのは出る人と入ってくる人の入替えが当然起こりますよね。そのときに、コンサートの人がいっぱいだったと。そして出る人がいなかったら、議会を聞きにきた人が入れないという状況はつくったらずいということですね。

○議長（梅田 徳男）

例えば、傍聴の方用に10席ほど確保という訳にはいかないですね。

○委員（川辺 隆）

今回、全員協議会室を使うとなれば、以前のコロナの時にやってきたモニター鑑賞の状況と全く変わらないと思います。

○委員（大塚州章）

例えば、45分に終わったら、一旦、トイレ休憩とりますので、皆さん出ていただいて、再度また御入場くださいというふうに一度皆さん出てもらえば、傍聴の人が座れるかなあと思いますけどどうですかね。

◎局長（林 昌英）

傍聴したい人とコンサートを見たい人というのは、入場のときに選別もできないし、それはすべきではないかと思っています。あくまでも議会として、議場の中を見てほしいということで呼んでいるわけですので、そこはあまり考えなくてもいいのではないかなと思います。

○委員（内藤康弘）

最終日傍聴に来る人は何人いますかね。2人か3人ぐらいだと思います。それを軽視するわけでも何でもありませんけども、30分のインターバルがあるので、そこは解消できるのではないかなと思います。

○副委員長（伊藤 淳）

コンサートが終わって傍聴席に残っていらっしゃる方も市民ですので、市民の傍聴者であるというふうに考えれば、私はいいのではないかなと私は思います。

○議長（梅田 徳男）

コンサートの開催によって傍聴できない人が出てくるのではないかという心配でした。コンサート後にお帰りになられる方がいれば問題はないということですね。

○委員長（戸匹映二）

基本的に選別はしないという方向でよろしいですかね。

（ 「はい。」 の声 ）

申込みは具体的に事務局で受け付ける形がよろしいでしょうか。

具体的に広報だけして、あとは先着順にするという形でよろしいですか。現場の対応はできるところはしていかないと思います。

○委員（内藤康弘）

受付は御提案である教育民生委員の委員がやればいいのではないかなと思います。

○委員長（戸匹映二）

コンサートに関してはそういう形で進めていきたいですが、ホームページに載せる中身とか、ケーブルテレビの文字放送の文言とかLINEに載せる内容については、匹田委員に具体的な名前の確認や文字の間違いとかがいうのも、調べてもらわないといけないので一緒に入っていてよろしいですか。そういう形でお願いします。

では最後に、（５）議会のICT化に向けた取り組みについて事務局からよろしく願いいたします。

◎書記（足立卓也）

#### （５）議会ICT化に向けた取り組み

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（戸匹映二）

事務局から説明がありましたが、今日決めていただきたい事項が3点あります。このタブレット導入に関して12月に予算要望をしなければいけません。そのために現時点で決めておかないといけないことが多く、一つが、タブレットの選定というところで、「Wi-Fiモデル」にするのか、「LTEモデル」にするのかという部分です。Wi-Fiモデルだといわゆる庁舎の中でしか使えないという形です。LTEモデルであれば、自宅とか視察等庁舎の外でも、インターネットに接続して使えるということになります。一応、事務局のとしてはLTEモデルのほうが、良いだろうということで進めています。まずこれについて、決めていきたいなと思います。ここは決を採りたいと思います。

タブレットの選定についてはLTEモデルでいいという方は挙手をお願いします。

（ 挙手多数。 ）

では、LTEモデルで進めていきます。

次に、二つ目はOSです。他市議会への調査も踏まえて操作性とか視認性では、iPadシリーズがいいかなというところです。これも決を採りたいと思います。

iPadシリーズでいいという方は挙手をお願いします。

（ 挙手多数。 ）

では、iPadシリーズで進めます。

最後三つ目がサイズです。サイズについてはA4サイズがそのまま映し出せるのがiPadシリーズであればiPad Pro 12.9インチです。これは値段も高いですが、この機種を基に予算要望していこうと考えておりますが、それでいいかなと思う方は挙手をお願いします。

（ 挙手多数 ）

そういうことで進めたいと思います。

あと、それ以外の部分ですが、まず予算的なところは、先ほど事務局から説明がありましたように、契約の仕方でいろいろ価格も変わってくるということです。また、執行部とも協議が必要ということなので、1番ベストな方法を、事務局が選択をするという方向で、この点に関しては事務局に一任する形でよろしいでしょうか。

( 「はい。」の声 )

購入方法の検討については事務局に一任をするということでもよろしく申し上げます。

もう今日は一応ここまで決まればあと、予算要望に向けて進めていくことができます。他に事務局から何かありますか

◎局長 (林 昌英)

1点確認ですが、ペーパーレス会議のシステムは県内では「moreNOTE」と「SideBooks」というシステムを使っているところが多いです。

ただ、白杵市では執行部が既にmoreNOTEを導入しておりますので、これでいきたいというこの確認と連絡ツールについて、まず皆さんがスマホを持っているかという確認と、LINEを使用しているかという確認をさせていただきたいなと思っています。

その上で、皆さんがそういったものをお持ちであれば、事務局からのお知らせをLINEで行いたいと考えています。これについては執行部からセキュリティーの関係で文字は良いが添付ファイルは現状できないと言われていました。

これについては議員全員が整えなければ別途また考えないといけない部分がありますが、まずはそこら辺から始めたいと考えています。

○委員長 (戸匹映二)

その連絡ツールに関しては、調査をしていただくということですね。

それについてはよろしいでしょうか。

( 「はい」の声 )

よろしく申し上げます。

本日決まったところについては、今後具体的に進めていきます。

◎局長 (林 昌英)

前回の第8回の特別委員会の中で、議会の議場の生配信の件が出たかと思います。

県内、各市議会のいわゆる生配信・生放送について、調査した結果なのですが、白杵市と津久見市以外は、どこもインターネットでライブ配信したり、ケーブルテレビで放送したりということです。県内のほぼすべての議会では生でそういった議会の模様を発信しているというような状況でございます。

その上で、一応我々のほうも、予算がどのぐらい伴うのかということで、今の段階で見積りをいただいた中では、ケーブルテレビでは今の録画プラスその当日の生放送をした場合は、約57万ほどアップするということになっております。

あと、ケーブルテレビではなくインターネットでも配信していますが、インターネットの

中でライブ中継という形で、もし行った場合どのくらいかかりますかということで、見積りしていただいた中でも、約55万円とほぼ同じぐらいということですので、先ほどのものとほぼ同じぐらいの予算が別に必要になるということになっております。これについては当然予算が絡むことなので、来年度からするというのであれば、早急にその話をするかしないかということになります。どうするかということは、なかなか難しいかなと思っています。来年度の当初に入れるのか、それともいろいろ議論していただいて途中で補正に上げていくのか。その辺を、前回生放送ということが出ておりましたので情報としてお知らせします。

○委員長（戸匹映二）

予算要望の時期でもありますが、この生放送についてはいかがですか。何か御意見あればお願いします。

○委員（川辺 隆）

議論が要ると思います。少なくとも、会派に持って帰って相談させてください。

次回以降の特別委員会で、もう1回協議してください。お願いします。

○委員長（戸匹映二）

来年度予算には間に合わなくても、じっくり検討するということがよろしいでしょうか。

（ 「はい」 の声 ）

それでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（梅田 徳男）

方向としては、生配信の方向だろうと思います。ただ、議員の発言という心配もありますし、そういったことを各議員が理解してもらった上で、生配信を実施するという方向で是非検討いただきたいと思います。

○委員（内藤康弘）

今言われた部分について、私も賛同ですけど、例えば不適切な発言があったときに、他の議会ではどういう対応をとっているのかといったことを調査してもらいたいと思います。配信の方法もいろんなシミュレーションがあると思いますのでそのところもいろいろ精査してください。

◎局長（林 昌英）

今の件は、また精査させていただきたいと思います。

○書記（足立卓也）

すみません。先ほど大枠の方針を決めていただいたタブレットの件ですが、その大枠の方針を全議員さんにお伝えする必要があるのかということと、お伝えするならいつか、また、当初予算の要求の内部の締切りが12月12日ですので、それまでには大筋の金額を、こちらは作るので、その金額を全議員さんにそれもお知らせする必要があるのかというところを少し議論いただければと考えています。

○委員長（戸匹映二）

その金額については、事務局のほうで、きちんとしたものを出していただいて、それにつ

いてはこちらで議論する余地はなくお任せしています。それのお知らせを全員協議会を開いて、説明するのかどうかですが。

○委員（川辺 隆）

月曜日の議員ゼミナール後の全員協議会で報告すればいいと思います。

◎局長（林 昌英）

月曜日はかなりタイトな予定になっています。開会日にも全員協議会があるので、その時はどうかと思います。中身の内容も説明はいいですか。

○委員長（戸匹映二）

そこは簡単に私のほうから説明するようにさせていただきます。20日に、報告という形をさせていただきますの。

○委員（大塚州章）

事務局に確認ですが、タブレットを導入するに当たって資料等は全部ペーパーレス化ということでいいですよね。例えば議事録もタブレットの中に入るんですかね。

○書記（足立卓也）

議事録については今も検索機能で、電子で検索することはできるんですけども、紙媒体のものを今後どうするのかというお話だと思いますが、それについては、他の市議会の運用を確認したいと考えています。私が聞いた中ではそういったのを全部廃止しているというところもありました。

○委員（大塚州章）

議事録の検索もなかなか難しいところがあるので、タブレットに入れてもらえれば、何年のっていうのを検索しやすくなるかなと思いました。

あと、全員協議会、委員会、部会の資料が全部この中に入るということで認識していいですかね。

◎書記（足立卓也）

この日のこの会議の資料はここにあるというのをすぐに見つけられるような会議システムになると思います。どういう運用をするかというのがありますが、できるだけ見やすく、探しやすいようにしたいなと思います。

○委員（大塚州章）

それともう1点、資料を更新したときとか、送付したよというときには、LINEWORKSで議員にお知らせする方法をとるということになりませんか。

○委員長（戸匹映二）

紙媒体をいずれはなくすという形にはなろうかと思いますが、少しの移行期間は必要ではあろうかと思います。

○委員（大塚州章）

その方向にいずれはなるかと思いますが、段階を追ってやると考えていいでしょうか。

◎書記（足立卓也）

移行期間は設けるように検討はしています。例えば会議システムにデータをアップした連絡をどうするかというところで、それについてはLINEで連絡するような運用にしたいと考えていますが、急ぎのものや重要なものについては、今後も、電話は使ってやっているとします。

○委員（大塚州章）

それと、タブレットが壊れたときのメンテナンスとか、差し替えが議場で間に合わないといったときには、どういうふうになりますか。

◎書記（足立卓也）

今議員18台分プラス事務局分、あと予備機として、数台持つておく必要があるのかなと思いますのでその分も、予算計上しようと思っています。

あとは保守サービスに加入しようと思っていますので、今いろんな業者に聞いていますが大体1日くらいで、取替えみたいな形で対応できるようですので、その辺はなるべく、早くできるような体制をとっていければなと思っています。

○委員（大塚州章）

その際に、例えば議員がメモで書いていることがすぐに新しいタブレットに移行できるのかどうか。その辺のところは今後分かればまた教えてください。

◎局長（林 昌英）

今の件ですけど、基本的にタブレットには保存しないです。クラウド上に保存されているので、タブレットがなくても、クラウドにアクセスすれば、その書いたのも全部残っています。

○委員長（戸匹映二）

基本的には一気にはペーパーレスということはできないと思います。

それでは、第9回の活性化検討特別委員会を終わります。

午前11時50分 閉会

---

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに記録を作成する。

令和5年11月16日

議会活性化検討特別委員会  
委員長 戸匹 映二